

前へ 前へ！



1年に一度のOlympic 選手のように学ぶものは！

スポーツに志を立てた者にとって、Olympicは究極の舞台。その輝く姿は、私たちに感動と勇気と希望を与えてくれます。

今回の冬季 Olympic、全てを網羅する事はできないし、記事にするのも烏滸がましいとは思いましたが、その素晴らしさを子供たちに熱く語るのも大人の役目ではないかとも思います。

○仲間と共に闘い、Teamの絆を深め、肩を抱き合い喜び合う姿

○思い通りのパフォーマンスができなくて、失意の中でも、インタビューで周りを気遣う姿

○思いもよらぬ事態に見舞われながらも、最後まで気丈に戦い抜く姿 etc.

尊いその生き様を、ぜひ子供たちに教えてあげたいですね。きっと何かを感じ取ってくれることでしょう。

子育てヒント集！こぼれ話Vol.3

一回飛ばしになりましたが…。今回は、“褒める”と“認める”について。どちらも大事なのですが、ある日、こんな一節に出会いました。

“子供が大人に求めているのは、大人の判断基準での“褒める”ではなく、過程を重視する“認める”という関わりなのだ”と。

そして、その理由をこう記してありました。褒められて育った子は、結果が出ているときはいいのだが、失敗したときに“かっこ悪い”という思考が働きやすい。一方、認められて育った子は、その経験から、“できないことも、繰り返しやっていくとできるようになる”という自信がついていくと。簡単に言えば、「結果は気にせず、まずはやってみれば！」という関わり方が大切だと！

そう言えば、故、野村克也氏は、“失敗と書いて成功と読む”という名言を残されています。こう言ってもらえれば、お子様は、やる気百倍になること請け合いですよね(*^o^*)

新年書き方会、県入賞者紹介！

前回号で紹介した、神埼地区特選の作品がエントリーされた、佐賀県審査が実施されました。県審査は、文字通り県内最高峰の審査会。本校からは、硬筆の部特選、宮地幸洸さん(1年)、古賀優菜さん(6年)、毛筆の部入選、船津亨至さん(3年)、中島梨々華さん、西村優羽さん(5年)が入賞しております。本当におめでとうございます！

☆☆☆これからも、頑張ってね(*^o^*)☆☆☆

伝統のボランティア活動(継承への動き)！



本校の本校たる所以の一つに、ボランティア朝掃除があります。6年生が中心に実践しており、なかなか清々しい光景です。赴任当初、子

供たちのその姿にふれ、感動したことを昨日のことのように思い出します。

さて、その6年生が間もなく卒業となります。4月からはどうなるのだろうとっていた矢先のことでした。6年生と共に5年生の姿がそこにありました。“ああ、こうして白鳥の心(人のために思い良い行いを密やかに行えば、その行為は自然と広がり、良い世の中になる)は受け継がれていくんだなあ”熟々そう思った瞬間でした。ちなみに、この写真は正面玄関。右上には“白鳥蘆花に入る”の意味と“湖人先生の思い”と記された掲示物も見えます。

ただ、この姿は、子供たちだけの力では成立しません。陰で子供たちの背中を押した、先生方の熱い思いがあったことを忘れてはなりません。手前味噌ではありますが、ただただ感謝の一言です。本校の先生方は、最高です(*^o^*)



